

自分事として考え、自分なりの答えをつかむことができる児童の育成
～国際理解は国内理解、アートマイル活動を通して～



津島市立北小学校 中西 浩之

陥りやすいミス



- 「活動あって学びなし」
- 「到達イメージができていない」
- 「例年と同じ」
- 「どこか受け身で他人事な子ども」
- 「振り返りの要素が希薄なので、経験して記録や感想を書いて終わり」



持続可能な開発(発展)のための教育

Education for Sustainable Development

E ええものを(いいものを)
S 子孫の
D 代まで

持続可能な社会づくりのための担い手づくり
Think globally, act locally

現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、身近なところから取り組む。

環境 貧困 人権
平和 開発



・SDの視点を教員自身がまずもつこと！



・バラバラだった教科・教材が結びついてくる。
(能力態度・人も結びついてくる！)



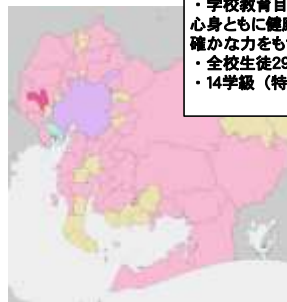
・SDの課題と子どもが出会う！



・「これでよく分かった」と知識で終わらず、もっと深いものがあることと出会い、共に葛藤する。



本校の位置【津島市立北小学校】



・学校教育目標
心身ともに健康で、豊かな心と自己実現をめざす。
確かな力をもつ児童の育成をめざす。
・全校生徒295名
・14学級（特別支援学級2含む）



1 レッツディスカバーワールドプロジェクト始動



活動の流れ

- ① **学年集会**…総合的学習で「レッツディスカバーワールド」と称し、「世界」をテーマに学習することを話す。
- ② **マインドマップ**…まず思いつく国を出し合い、その後「世界」を中心にマインドマップでイメージを広げていく。
- ③ **プロジェクトアイデア**…プロジェクトを作っていくのは自分たちと伝え、どんな1年にしていきたいか、どんな活動にしたいかをグループでブレインストーミングを用い出し合う。

子どもの声

- 思いつく国が少なかったのでまだ知らない国を知りたい。
- できるならば、色々な国の人と交流をしてみたい。
- 大きなプロジェクトにしたい。

2 EIUP国際理解教育プログラム

活動の流れ

名古屋大学の留学生団体EIUPから4名（中国・フィリピンの方をゲストティーチャーに招き、講義を聞く。その後、各グループで交流をする。



子どもの声

- 正直、イメージがあまりよくなかった国もあったけど、今はまったく逆になった。すごい堂々と自分の国のいいところを言っていてカッコよかった。
- 日本の当たり前は当たり前じゃなかった。もっと知りたい。
- もっと日本のことや津島のことを知って、私もあんなふうにPRしたい。

3 異文化理解は自文化理解

活動の流れ

- ① **座禅体験**…禅宗の歴史に触れ、禅の教えを聞いていただく。
- ② **茶道体験**…茶道の歴史はもちろん、作法について学び、礼を正す心構えについて教えていただく。
- ③ **教科を横断し、狂言体験や水墨画体験を行った。**

子どもの声

- いい日本の伝統が失われているのかもしれない。これが日本の良さだなあと納得できた。
- 外国の人に教えてあげたい。自分にとってはこれも異文化だった。



4 日韓中交流会

活動の流れ

津島市にホームステイをする中国と韓国の児童と交流をした。津島の町と学校のPRをし、共にダンスや折り紙などに取り組んだ。



子どもの声

- なかなか通じ合えなかった分、ジェスチャーや表情を使った。通じた時のうれしさは忘れられません。
- おもてなしができてうれしかった。お互い違う文化なのだけど、知り合おうって大切だなあと考えた。

5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

活動の流れ

- ① **読み聞かせ「風の谷のウィリアム」**
導入として、マラウイの子どもが描かれている絵本の読み聞かせをし、想像をふくらませた。

子どもの声

- すごい前向き。前向きって大事ななあと思った。
- たくさん勉強をして、ふるさとの役に立とうとすることがカッコいいなあと思った。



マラウイの位置【チテゼ小学校】



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

活動の流れ

① ふるさと津島・日本のPR&マラウイ新聞
相手国について知るとともに、自分の国やふるさとについて英語を使って分かりやすく相手に伝える。

子どもの声

- ・地球の裏側にあるマラウイの人と交流できるなんてドキドキする。
- ・クイズを出し合って、マラウイやアフリカについてくわしくなれた。



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

活動の流れ

① 4チームに分かれて活動
アートチーム・コミュニケーションチーム・プレゼントチーム・グリーティングカードチームの4チームに分かれ、代表が情報を交換し、進捗を刺激し合いながら活動を進める。



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

作品展、全校朝礼、卒業式で披露。



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

完成作品を披露します。



5 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

子どもの声

- ・海を渡ってきたことを想像するとすごいなぁと感じた。
- ・一生懸命がんばって高め合った成果が出たと思う。
- ・卒業しても忘れたくない思い出になった。
- ・みんなのうー！がすごかった。
- ・色づかいでも国による違いがわかった。
- ・初めて筆を使ったのにすごい上手。がんばったという気持ちが伝わった。
- ・マラウイに行ってちゃんと向かい合ってお礼が言いたいし、握手がしたい。
- ・世界は広いし、まだ知らないことがたくさんあることがわかった。
- ・アフリカと交流することはとても貴重なことだったので一生の思い出にしたい。
- ・ほくたちの当たり前は決して当たり前でないことがよくわかった。
- ・これからアフリカのニュースに興味が出ると思う。
- ・マツカバジというあいさつはずっと忘れない。
- ・この壁画はこれからどこに飾られて、見る人が何を感じ取ってくれるかが気になる。

6 For ～自分ができること～

子どもの声



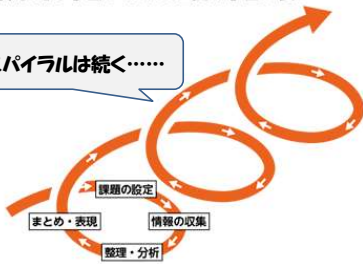
活動の流れ

- ・スマホ時代とカースパースチューデントとか言われているけど、心でつながること。そして、世界中が助け合うこと。それができる大人になる。
- ・まずは、自信をもって、こういう現状だから募金しよう、とか堂々と率先して伝えたい。
- ・これで終わりだけどまだまだ調べ続けたい。
- ・自分の国の良さは残していきたい。

- ① JICAから学ぶ：世界が抱える問題について深める。
- ② UNICEFから学ぶ：Forの活動の参考に。Forの意識をもつ。
- ③ For～自分ができること発表会～：自分なりの答えを見つけ、保護者の前でこの1年のまとめをする。

探求的な学習における生徒の学習の姿

探求のスパイラルは続く……



- 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。
- 探求の過程を経由する。
①課題の設定
②情報の収集
③整理・分析
④まとめ・表現
- 自らの考えや課題が新たに更新され、探求の過程が繰り返される。

研究のまとめ 成果

子ども主体の総合的な学習の時間を作るため、ある程度の単元構想を計画しながら、柔軟にその時の子どもの様子や要望によって軌道修正していくことができた。

地域の人材、関係機関の積極的活用

国際理解とはどういうものなのかを子どもを通じても知るきっかけとなり、自分自身も活動にのめり込んでいった。(これが一番大切と感じた。)

研究のまとめ 課題

自分事として考え、自分なりの答えをつかむことができる児童の育成

助言、アドバイスのタイミング・深度
時間数の確保
外国語活動の充実
教員の多忙化
評価の在り方



ご清聴ありがとうございました。